

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 第9回
コメント一覧

『ボリス・ゴドゥノフ』

佐々木彰訳で岩波文庫に入っています。もう他の文庫や単行本では読まれなくなっていますが、ロシア文学の名作です、ぜひともご一読を。プーシキンでは『スペードの女王』も。

ネステレンコ

声も演技も素晴らしいロシアを代表するオペラ歌手(バス)。1938年生まれ。ロシア人のオペラ好きによると、テノールはイタリア人でなければ駄目だがバスはロシア人だ！とのこと。ムソログスキーの研究家でもあります。

八幡の藪

こう書いてみると古い言葉ですね。おそらく読者の皆さんの語彙に入っていないでしょう。市川市八幡にあった竹藪のことで、迷い込んで出られない、ことに譬えます。「やわた」と読みます。ぼくらの世代だと、落語、講談など、耳で聞きおぼえた言葉ですね。落語は教養番組でした。

library

たまたま手元にある通販のカタログを見たら「リビングの壁面は私の書齋」というキャッチフレーズがありました。「書齋」を「収納キャビネット」くらいに思えばいいのですね。

持っていませんでした

うまくlibraryから逃げた。

置いてある本

うまいよ。

部分的に耕作している

実際の風景からは生まれぬ描写ですね。お役人の報告書かな。

少しずつ悲しげに姿を消して

この部分だけを読めば名訳だな。

見わたす限りの平原に

「見渡す限り」――風景描写でよく使われる常套語句なので、意外と実感が無い。

戒めの引用

「戒めの引用句」とした方がさおよかった。

趣味があちこちに反映されている
苦心の迷訳だな。

依然として
まだ、いまだ

未来の出来事

「未来の出来事」は悪い翻訳ではないはず。でも、通読すると変です。こうしたときは翻訳者の日本語の感覚を重視した方がいいな。

区別

父親デュマの書いた「ダルタニアン物語」でも持ってきたのでしょうか。あるいは数多く書いたお芝居かも。

フランス小説

ここで知ったかぶりをすると、十九世紀のフランス小説は400冊の小説を書いたと豪語するポール・ド・コックを初めとするお色気小説がヨーロッパを風靡していたといいます。マルクスの愛読書でもあったんですよ。

神話

『古事記』で「天地初発之時(あめつちのはじめのとき)」とあるけど。翻訳していると、ときには訳者の「言葉遊び」もしたくなる。

思わず引き込まれる大ジュマの名作

きっと『モンテクリスト伯』が頭に浮かんだんだろうな。それだったらmasterly and charmingじゃないな。

新世界

「新世界」は「別世界」の方が良かったかも。

bell

「ベル」ではない。打ち鳴らす鐘、ですね。

有無をいわせない、妥協の余地のない響きで

原語が出現頻度の低い言葉なので、訳語も漢語を選びましたが、砕いてもいいな。

腕時計

当時「腕時計」は存在していましたが普及はしていなかった。ボーア戦争以後だったようです。1940年代の日本の紳士たちは懐中時計でした。

【この提案を真剣に考える】

推薦しないときも、その旨お伝えします。手をつけている作品がありますか？ 新刊の著作権フリー本だけが市場ではありませんよ。編集部宛てに「自己紹介」と翻訳する作者(作品)を教えてください。手順を案内します。